



News

文学講座を開催しました！

10/16・18の2日間、文学講座を開催しました。今回は『万葉集』を題材にし、先生の分かりやすい解説を交えて読み解いていきました。参加者の方々にも喜んでいただき、大変充実した内容となりました。多くのご参加、ありがとうございました。

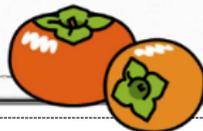


図書館カレンダー【11月】

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

毎週月曜日は休館日です。

第3木曜日は、館内整理休館日です。



今月の展示

小説

長崎ゆかりの本

エッセイ特集



実用書

新書は面白い

秋のポカポカ 手作り

多肉植物を育てよう

西館日和

先月、図書館で万葉集を題材に文学講座を開催しました。万葉集は多くの方が高校などの授業で学習したことと思います。年を重ねた今ではまた感じるものが違い、味わい深かったのではないのでしょうか。

誰しも、なかなか自分からは手にしなかった文学作品でも、学校の授業で触れたものがあったと思います。しかし、残念なことに国語教育において、文学作品との出会いが授業から極端に減ることになるようです。2022年から実施される新学習指導要領によって高校の国語は大きく変更され、「文学国語」として選択科目の一つになることが決まっています。選択科目については学校側や生徒の裁量に任されることになり、そうなるとその先の大学入試や取得単位の関係から、「文学国語」を選択しないことが大いに考えられるとの見方がされています。この問題については、最近いくつかの文芸雑誌等にも取り上げられているようです。

高校の国語教育から優れた文学作品に触れる機会が失われ、さらに読書離れが進むのではと心配されます。図書館として何ができるかを考えたいと思います。

分館長 池田

おすすめの1冊

『夢見る帝国図書館』

中島京子／著 (文庫)



フリーランスの雑誌記者として、仕事で訪れた国際子ども図書館。主人公が取材を終え、上野の公園のベンチで休んでいると、一風変わった格好をした喜和子さんという白髪の女性と知り合う。作家を目指しているという主人公に喜和さんは上野の図書館を主人公の話に書いて欲しいと頼むのだった。喜和さんは会うたびに本の進捗状況を聞くのだが、全く進んでおらず、仕事が忙しくなっていく、2人の関係も疎遠になっていくのであった。そんな中、喜和さんが施設に入り、体調もかなり悪いと知らせが届き、会いに行くのだが、身寄りのない1人暮らしだと思っていた彼女には娘がいて、信じられない過去がわかってきた。戦後を生きた喜和さんと明治に出来た日本初の図書館。ふたりの物語は平成の時、図書館を愛した明治以降の小説家達も登場し、つながっていくのであった。帝国図書館の歴史は「ビブリオテーキ」文庫を作ろうという福沢諭吉の意見に基づき建てられ、「国民に本を読ませない国は亡びるよ。ほんとうに大事なものは教育ですよ。ものを考える力を養うことですよ……」という若き文部省官吏の思いから綿々と現在につながっている。終戦の日も開館していたそう。知のとびらはいかなる時も万人に開かれていなければならないのだ。(M)

新刊ピックアップ!

『スコットランド』	ウイリアムス春美	芙蓉書房出版
『介護職がいなくなる』	結城 康博	岩波書店
『登校しぶり・不登校の子に親ができること』	下島 かほる／監修	講談社
『季節でいただくまいにち薬味』	平尾 由希	主婦の友インフォス
『ねずみ年のゆる文字年賀状』	宇田川 一美	誠文堂新光社
『初心者でも必ず上達するジョギング&ランニング入門』	坂本 雄次／監修	マイナビ出版
『明日の僕に風が吹く』	乾 ルカ	KADOKAWA
『不審者』	伊岡 瞬	集英社
『イモムシ偏愛記』	吉野 万理子	光文社
『アンジュと頭獅王』	吉田 修一	小学館
『旅の作法、人生の極意』	山本 一力	PHP 研究所
『大英自然史博物館珍鳥標本盗難事件』	カーク・ウォレス・ジョンソン	化学同人

この他にもたくさんあります！ 貸出中の本には予約ができます。ぜひご利用ください。